

虫川の大杉(上越市浦川原)

「何のために？」原点に返って未来を臨む

支部長 茂 木 徹 (60年度)



5月7日、大橋伸夫会長をお招きして対面で行った支部総会。新しく支部においでになった皆さん、引き続き上越で活動する皆さんと、顔を合わせて語り合える機会を得ることができました。会員の皆さんと接することで一人一人の思いや熱量を肌で感じる事ができた貴重な機会になりました。とても嬉しく有り難い時間となりました。

総会の折、大橋会長は激励の言葉の中で、次のようなお話をされました。

皆さん「夢は何ですか？」と聞かれてすぐに答えられますか。私は、自分らしく楽しく生きていくことを目標にしています。皆さんもどんな自分になりたいかを明確な姿として描き歩むことが大切だと思います。

ここで話された「楽しく」とは単なる享乐的な楽しさを意味するものではありません。教職に就く私たちにとって、どんなときに楽しさを感じるのか、はっきりさせることが重要だと話されました。そのために、

- 目標とする自分の姿を明確にする。
- 目標達成に向けて努力を続ける。
- 自分の評価基準を設ける。

このようなロードマップを一人一人がしっかりと描き、教員としてこうありたいと願う姿を明確にして、日々学び続けることが重要であることを私たちに伝えてくださったと思います。

私たちは、日々の業務の中で、とかく目の前の仕事をこなすことにとらわれ、ややもすると本質的な意味や意義を見失いがちになることがあります。だからこそ、「何のために？」と目的を明確にし、自分の描く教職の理想像に向けて、足下を見つめ直すとともに、先を見据えて取組を進めていかなければなりません。まさに原点に返って未来を臨む視野を大切にしていきたいと感じました。38年前、教員採用試験面接で、「あなたはどんな教師になりたいですか？」と聞かれたとき私は、「植物が自分で成長するための肥料となるような支援ができる先生を目指します。」と答えたことを覚えています。振り返ればこれが今の私の原点になっています。